

だがしや楽校入門編 気軽なみせ開きでまちに出よう
第7回「だがしや楽校を終えて、それぞれの気づきを共有しよう」
9月3日（土曜日） 午前10時～12時 於：セッション杉並
学習支援者 谷原博子

本日の日直

本日9月3日は何の日でしょうか？ご存じの方はいらっしゃいますか。組合の日も、そうですね。ホームラン記念日だそうです。王選手が世界新記録を作った日でもあります。ソフトバンクの設立記念日でもあって、1981年にできました。ドラえもんの誕生日でもあります。さて、私は和装で参りました。着物を着ることが好きで、和服店にもよく伺います。杉並区には、手軽に買えるお店が多くて、西荻窪は、リサイクルの着物ショップが多く、手頃なものを買ってきては作り替えたりもしています。和服は夏涼しくて冬は暖かいので、とても便利です。中に着ている襦袢は汗を吸いますし、小銭入れ、携帯、手ぬぐいなど懐には、いろいろ入れられます。こちらの手ぬぐいは、落語家の方から頂きました。東京オリンピックも開催されますので、みなさんには和服を着てほしいなと思っています。私は自分でモノを作るのが好きです。男性の和装には、合うバッグがありません。そこで、浴衣の生地を使って、大きめのバッグを作ってみました。巾着も、着物の袖の部分を使って、作りました。ミシンも使えますが、手縫いで縫製しました。着物の生地を使ったバッグも持っていたのですが、なんとネズミにかじられてしまいました。お気に入りだったので、残念です。手縫いなので、作るのは時間がかかりますが、作っている時は楽しいです。昔から、作るのは好きで、靴下はよく繕っていました。以上で、日直を終えます。ありがとうございました。



学習支援者 谷原

先週は(注)、お疲れさまでした。忙しすぎると、他の方のおみせを見られないのですが、今回はお互いの展示をみられましたよね。プレイヤーと観客の両方を体験できたのは良かったかと思います。今日は、先日のだがしや楽校の振り返りをしたあとに、次回の高円寺の散歩についてお話できたらと思います。地域で何かをしたいなという気持ちになられたと思いますので、その気持ちや、だがしや楽校のことを四文字熟語で表してみます。これは、前回からの宿題ですね。その前に、だがしや楽校の感想を共有しましょうか。

(注)高円寺の蚕糸の森公園で、だがしや楽校のみせ開きを行いました。



参加者

折り紙をやっていたのですが、お客さんがあまり来なかったもので、あちこち見て回りました。子供たちも楽しく作っていて、私たちも楽しくなりました。

参加者

スカイプでインドと通信をして、現地の方と話してみました。子供が興味を持ってくれるかと期待していましたが、大人の方が、興味を持っていたようです。

参加者

振り子の原理を説明してみました。実際は、お客さんがあまり来なかったので

他のおみせを見て回ってました。子供に説明して、反応をみたかったのですが、できなかったのは残念です。私たち受講生も集客をした方が良かったと思います。

参加者

作ったものの持ち帰りの方法を気にしていました。金魚の折り紙は透明のカップに入れられていたので、見た人も参加したくなります。みんなの注目を浴びて、持ち帰りやすく、家でも再現できるような持ち帰りの工夫を考えたいです。

参加者

朗読劇をやったのですが、雨が降ったら、帰ってしまうのは仕方ないなと思います。声が響いたり、届かなかったりと場所選びは大切だと気づきました。集客は、自分たちで呼びかけをしても良かったです。

参加者

準備万端で当日は臨みました。ところが、参加者はゼロだったので、子供たちを動物のモノマネで引きつけました。たくさんのギャグを考えていたので、次回はもっと披露したいです。

参加者

折り紙で金魚を作っていました。たくさん作ったのですが、当日、作った金魚を持って出るのをすっかり忘れてしまいました。子供の頃に戻った気分になりました。スカイプはすごく楽しく、またやりたくなりました。天気は残念でしたが、とても楽しかったです。子供がお財布からお金を出すのは、どうなのかなと思いました。ところが、お金を出すのも社会勉強ということで、子供たちの体験になったのは良かったなと思います。

参加者

最初から得意なものではなく、割り箸など不要品を活かしたことをしたいなと思って参加しました。分担作業はできず、自分のことで精一杯でした。お互いが、いっぱいいっぱい打ち合わせができなかったのです。準備不足とはいえ、

割り箸の工作に人気があると分かりました。他のブースをみられなかったのは残念でした。

参加者

音楽を朗読劇につけさせていただきました。演じる人は、それぞれの世界観を持っていることが多いのですが、すんなり伴奏を許可してくださったのには、感激しました。大葉の販売もやりましたが、もっと面白くできなかつたかと反省しています。取り放題も、ひとつの手段だと思います。

参加者

工作の手伝いをしていました。やる人は、みんな真剣に集中するのだなと感心しました。子供も大人も夢中になっていたのです。初見では作るの難しいと思ったのですが、みなさん、ちゃんと作っていました。次回は、折り紙をやってみたいです。

社会教育センター 遠藤

みなさんが楽しくされていたのが、なによりでした。自分も何かやりたいなと思いました。

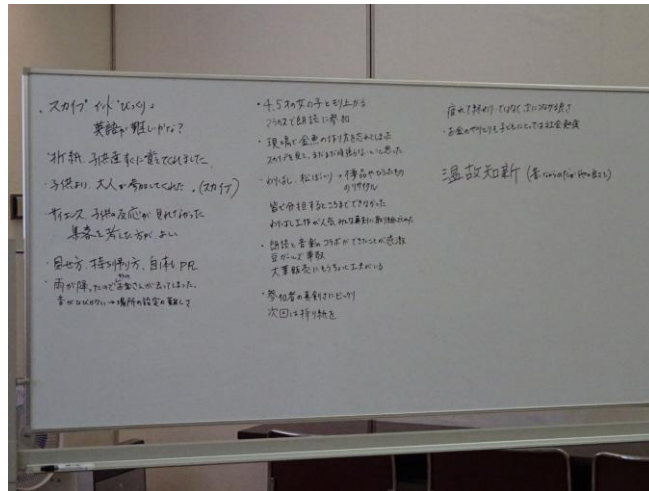
社会教育センター 中曽根

たいていのイベントは消耗型といいまして、終わった後にどっと疲れてしまいます。しかし、今回のイベントは、終わった後に、次につながる感じがして良かったです。イベントの方法だったのか、規模感が理由なのか分かりませんが、暖かい雰囲気生まれた感じがしました。チラシを配る時に、だがしや楽校を開催していると言うと怪訝な顔をされましたが、山形から来た豆ガール（※）が伝えると、興味を引けました。まずは、やってみるとというのが第一歩です。みなさんが、楽しんで行われていたのが印象的でした。

（※）山形の置賜農業高校の生徒も、みせ出しに参加しました。

学習支援者 谷原

だがしや楽校のコンセプトをお伝えしたと思います。かつてあった、駄菓子屋がモデルです。お金やモノの取り扱いは、駄菓子屋で学びましたよね。駄菓子屋のおばちゃんは、社会を教えてくれるだけではなく、町の相談役でもあり、おしゃべりの場でもあります。みなさん、それぞれが自分のスタイルで場所、お店を出せたのは良かったです。



自分店（みせ）のポイントは、披露したいモノや体験を媒介にして声をかけあうこと。体験、知恵、感情を分かち合うこと。自由な関係づくりを心がけることです。実際にやってみると、瓢箪から駒といえるような、予想もしない効果が生まれることもあります。また、やってみると分かることがあったと思います。だがしや楽校に参加した先輩たちは、自分店（みせ）について、こんなことを言っていました。自主的に楽しむ、気負わない、事前に考えすぎない、容認してくれる仲間がいる。そんな体験を、今回できたのであれば、うれしいなと思います。終わった後に交流してみたり、集客をどうしたらよいか考えたりと、だがしやを開いた後に、次の展開が生まれていくのが素晴らしいところです。これからどんどん生まれてくると思います。違う場所、違う方法でやることもできます。活動の役割分担は、プロデューサー（とりまとめ役）、ファシリテーター（お世話役）、プレイヤー（演者）、オーディエンス（観客）。すべての役割をできるのが、だがしや楽校の良いところです。いろんな役の人を集め、また、みなさん自身もいろんな役を体験してみてください。それでは、四文字熟語を発表してみましよう。

参加者

温故知新。むかしの駄菓子屋の良さをみなさんと一緒に感じられたので。

参加者

協働共育。みんなで、一緒に企画を考え、作り、行動しながら、育っていくと考えました。

参加者

無私童心。自分のエゴなどをいったん置いて、まずは子供のように楽しみ、人とも接していく。

参加者

知縁結縁。人と出会って、さらに良い出会いが生まれる。
歓喜絶命。遊びは死ぬまで楽しんでいきたい。

参加者

作笑楽考。笑いながら作る、笑顔で教えることを心がけています。モノを作る前に考えることが楽しいです。楽校なので、最後は楽考としました。

参加者

創楽造喜。創造と楽しさ、喜びを合わせて作りました。

参加者

伸率満載。これからは、もっと参加者を増やしたいなと思って、考えました。

参加者

笑楽共創。楽しく笑って、みんなで創る。

参加者

商客平等。売る人もお客さんも平等だったので。
行来売幸。見に行って楽しくて、やって楽しい。

改良無限。改良するところ、できるところが多いので。

参加者

夏季交集。夏にみんなが集まって、交流しながら、出来たなということで。

社会教育センター 遠藤

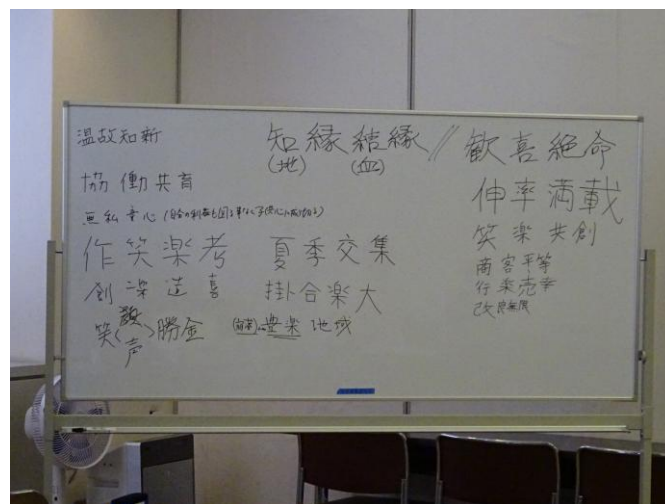
掛合楽大。みんなで声を掛け合い、楽しさは増え、苦労は減っていったなと感じたので。

学習支援者 谷原

豊楽地域。地域も、集まった人々も豊かに楽しくなることを考えて。

参加者

笑声勝金。笑顔はお金に勝るということで。



社会教育センター 中曽根

杉並区の教育ビジョンというのがございまして、「ともに学び、ともに支え、ともに創る」があります。近い内容が入っているので、驚きます。今の杉並区は、競争から、共創になっています。今回のだがしや楽校は、まさにみなさんで創り、学んだのだなと感じました。